

日本映画放送株式会社 第87回番組審議会議事録

1. 開催年月日：令和5年11月14日(火) 16時～

2. 開催方式：対面とweb会議ツールを用いて実施。

3. 委員(順不同・敬称略)

出席：鈴木 嘉一・砂川 浩慶・宮崎 美紀子・尾形 敏朗・山川 鉄郎

web会議ツールにて出席：神田 由築・倉田真由美

放送事業者

代表取締役社長 石原 隆

専務執行役員：山口 真

常務執行役員：宮川 朋之

編成局長：小川英洋

編成部長：三品貴志

編成制作局：八巻 洋平 宮澤俊平

番審担当：澤 尚志 碓井恭子（記）

4. 議題

(1) 審議事項：日本映画専門チャンネル 9月放送「×^{かける}ソーゾーシー」について

(2) 報告事項：時代劇専門チャンネル〈池波正太郎生誕100年企画〉9月・10月放送

「映画『仕掛人・藤枝梅安』」テレビ初・二部作連続放送について

5. 議題（1）番組概要

2017年に落語家の瀧川鯉八、春風亭昇々、立川吉笑と浪曲家の玉川太福の4人が組んだ創作話芸ユニット「ソーゾーシー」。「新作こそがスタンダード」を掲げ、チケット完売が続く演芸会を代表する存在に成長している。

これまで多くのクリエイターを特集してきた日本映画専門チャンネルでは、お笑い芸人の又吉直樹（ピース）が「そうぞうしい」をテーマに詠んだ自由律俳句を基に、4人が創作に挑むこれまでにない切り口のコラボレーション企画を立案。今年7月東京・深川江戸資料館にて有料の特別公演「×^{かける}ソーゾーシー」を開催した。4人は割り当てられた自由律俳句を落語・浪曲化し、当日の公演では又吉本人の前で演目を披露した。アフタートークでは又吉も交えて句と落語、浪曲への解釈や感想、創作時のエピソードを振り返る。

イベント開催 → 9月日本映画専門チャンネル番組放送 → スカパー！での見逃し配信と広げる試みは、時代劇専門チャンネルよりも日本映画専門チャンネルの視聴者と親和性が高いと判断し、編成した。

【審議のポイント】

- (1) 本企画は、有料チャンネルの試みとして新たな価値や魅力、可能性を創出できたか。
- (2) 高座の後、元になった自由律俳句を発表する流れは、放送番組の構成上効果的だったか。

6. 議題（1）審議内容 ※文中敬称略

- ・ 日本映画専門チャンネルには新旧の映画をミックスする編成力があり、映画の枠を超えて彼らを応援するのはアリだ。自由律俳句と組み合わせるのもおもしろい試みだったが、この方法で演者を育てるには時間をかけて地道に継続するしかないと感じた。
- ・ 又吉さんの自由律俳句と落語、浪曲を合わせたのは良かったと思う。一般的には知名度が低い「ソーゾーシー」だが、チャンネルが又吉直樹という大物をゲストにブッキングすることで演者側にとっても力を発揮でき、認知度を上げる大きなチャンスになる。今後も年に1回日本映画専門チャンネルとのスペシャル公演を企画してもよいと思う。番組構成については再考してほしい。
- ・ 実験的な試み。ネタを先に出すか後にするかという問題も含めて、メリハリをつけないと視聴者には2時間が長く感じるだろう。唯一の浪曲はおもしろかったが、3つの落語は微妙だった。
- ・ イベントから配信までパッケージとして全部チャンネルが仕掛けるのはおもしろい。企画段階からカメラが入り、幕間でそれぞれがネタ作りに苦悩する姿を見せるのはテレビならではの構成で興味深かった。構成面では、演者たちのネタ作りに悩む心境が伝わるよう最初に割り当てられた俳句を視聴者に見せて欲しい。
- ・ 古典落語は作り込まれる過程で工夫を凝らし、贅肉を削いだり、つけ加えたりを経た完成度がある。創作落語は自由におもしろいものを作るもの。自由律俳句と掛けると意外と窮屈になるのだと気づいた。番組構成については最初にお題を見せてどう広がるかを検証する方が、一見の視聴者には見やすいのでは。
- ・ この番組は試作品をどれだけ楽しめるか、という企画。話を採点しながら、自分が順位をつけるなら点数はどうするかと思いながら見た。高座そのものの点数をつけた後で元となった俳句を見た時に、俳句との関連性で「これがこうなるのか」という意外性によって評価が上下したりして、2回楽しめる。私は高座が先で俳句は後で正解だったと思う。
- ・ 演題を最初に見せてほしかった。どういう話をやるのかは演題を見てある程度イメージを湧かせながら聞くのが、落語や浪曲の楽しみだ。映画でなくても、日本映画専門チャンネルは新しい試みに挑戦すべきだし、最初から100点は取れないのも織り込み済みだ。まずはやってみて、反省点を糧にすればいい。視聴者にはなにが親切なのか、より知的なおもしろさを伝えるにはどうしたらよいのか、そういう観点や、コラボの在り方も考えていけばいい。

これに対し弊社からの回答は以下の通りであった。

- ・ イベントの成功を優先していたので、アフタートークで種明かしを楽しんでいただくことを目指す構成にしていた。私たちも公演をそのまま番組化して、ソーゾーシーや落語を初めて見る人に対して魅力ある番組になったのか、気になっていたし、改めて考えている。
- ・ 今回は二点挑戦した。一つは有料放送・配信という最終的な出口を目標にして、リアルイベントを運営、もう一つは、映画分野以外の新進気鋭のクリエイターとの接点も増やすことにあ
る。今回リアルイベントを企画・実行するノウハウも得られた。これから活躍する方たちを先
取り紹介する貴重な機会にもなったと自負している。番組としての構成と演出については改善
点がある。今回、指摘された点は今後の企画に役立てたい。
- ・ 「×ソーゾーシー」の企画を知らされた当初、日本映画専門チャンネルで放送する意図を考え
た。今も視聴者にとって違和感のない新しいジャンル、新しいコンテンツを模索中である。今
回は古典的な落語や浪曲に新しい息吹を吹き込み、コラボレーションすることをチャンネルの
新しい挑戦として編成した。改善点があるが、それだけに留まらず今後もイベントを仕掛け
て、放送に繋げるノウハウを育てていきたい。

7. 議題（2）報告事項

時代劇専門チャンネル〈池波正太郎生誕100年企画〉「映画『仕掛人・藤枝梅安』」
テレビ初・二部作連続放送について

2023年2、3月に池波正太郎生誕100年と当チャンネル開局20周年を記念して劇映画『仕掛人・藤枝梅安』二部作を劇場公開した。シネコンの観客層と合致しない、ターゲットだった30～40代女性が午前中の上映時間では観られないなど、興業面では厳しい戦いだった。作品の評価は高く、報知新聞の映画賞に最多ノミネートされた。9、10月に時代劇専門チャンネルで連続テレビ初放送したところ、チャンネル視聴者の関心が高く、J:COMで視聴率、録画率共に高く、録画率は過去最高の数字だった。

8. 連絡事項

次回第88回番組審議委員会は、2024年2月13日(火) 15時より開催予定。